

エリ網付着物原因生物の動向と温度選好性

幡野 真隆

◆背景・目的

北湖のエリ網上にマット状の付着物が形成され、作業上の問題となっている。エリ網付着物の発生機構を解明する一環として、エリ網付着物のモニタリングを行うこと、原因生物とされている糸状性藍藻*Phormidium* spp. を網から単離し、その増殖特性を明らかにすること、底泥上での糸状性藍藻の分布状況を把握することを目的とした。

◆成果の内容・特徴

- エリ網付着物中の優占種は過年度の*Phormidium* spp. から珪藻類になっており、春季の付着物に特徴的であったかび臭は認められなかった。
- 試験網を設置し、付着生物の出現動態をモニタリングしたところ、大型の*Phormidium* spp. やエダヒドらは網近傍の底質由来であることが示唆され、小型の*Phormidium* spp. や珪藻、緑藻類はプランクton的に浮遊して網に付着するのではないかと推測された(図)。
- エリ網などから単離した*Phormidium* spp. 7株の温度毎の増殖特性を培養実験により検証したところ、高温で高い増殖力を持つことが示された。

◆成果の活用・留意点

- 今年度はエリ網汚損原因生物の出現動態が過年度と異なっていたことから、今後もモニタリング等を行い、今年度の現象が一時的なものであるかどうか注視していく必要がある。
- 温度条件以外での*Phormidium* spp. の増殖特性を明らかにするとともに、珪藻など他の生物についても同様に検討する。
- エリ網周辺の底泥上の糸状性藍藻などの分布調査を行い、エリ網上の生物群集との比較を行う必要がある。

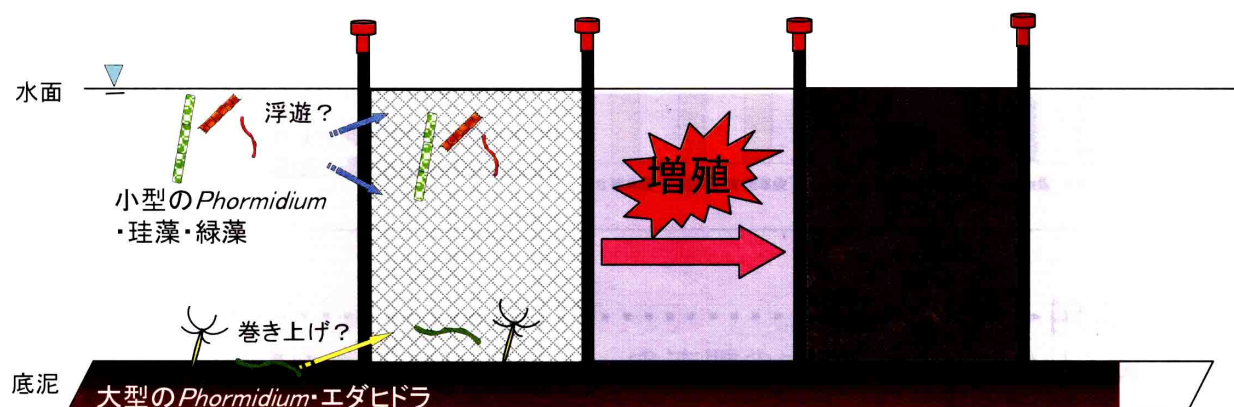


図 エリ網付着物原因生物の加入経路の想定図